

堺市の生物多様性にふれる冊子

堺いさものの通信



スジグロシロチョウ

2025 春号



キビタキ



メジロ



カワヅザクラ

ヘビイチゴ



カメノコテントウ



ホオジロ

ツバネシジミ



シマアサシライ
ハチ



ニホンカナヘビ

堺にすむ いきものたち

生物多様性とは、単に動物や植物の種類が多いということだけを意味するものではありません。地球上では、様々な環境の中で多様な生き物が食べる・食べられる・共生するなど、お互いにつながりをもって生きています。このように、多様な生き物がお互いにつながりをもって生きていることを生物多様性といいます。

ここでご紹介する写真は、すべて堺市内で撮影された写真です。WEBサイト「堺いきもの情報館」に市民の方などからご投稿いただきました。個性豊かな生き物たちや彼らのすみかを見て・知って、生物多様性を感じてみてください。**生物多様性とは身近なものなんですよ！**

もっと **いき** もの知りになれる！

生物多様性のおはなし

－ 野生動物との共生 －

クマ、シカ、イノシシなどの大型野生動物が住宅街に迷い込み、人間生活の脅威となっているというニュースを最近よく耳にします。これらの動物はもともと日本に生息しており、これまでも人間生活と衝突することはありましたが、特に最近では、それが顕著になっています。狩猟人口の減少、個体管理計画の不備、天敵の絶滅等、直接的に個体数に影響する要因がクローズアップされがちですが、それだけが問題の根底ではありません。主要な間接的要因としては、人による自然への働きかけが失われたことが挙げられます。

大型野生動物の生息する山間部と人の生活圏（住宅地）の間では、里地・里山が緩衝地としての役目を果たしていました。里地・里山は、農業など人の営みの中で形成・維持されてきた環境ですが、管理が行き届かず荒廃してしまった里地・里山が全国的に増えています。そこは、大型野生動物が好む木の実が豊富なエサ場であるだけでなく、生い茂った藪はそれらの格好の潜伏場所となります。つまり、かつては大型野生動物を人間の生活圏から遠ざける役目を果たしていた里地・里山の多くは、大型野生動物を人の生活圏に招き入れる存在に変わってしまったのです。

里地・里山の管理といった自然に対する人の働きかけは、豊かな生物多様性を守る上で極めて重要です。しかし、それだけでなく、人と野生動物の共生社会の実現においても非常に重要な役割を果たしています。野生動物を悪者にしないためにも、適切な自然とのかかわりを維持したいものですね。



堺市の生物多様性を考えるWEBサイト

《編集・発行》

堺市環境局 環境保全部 環境共生課

TEL : 072-228-7440 / FAX : 072-228-7317

E-mail : kankyo@city.sakai.lg.jp



WEBサイト
トップページ

ユーザーネーム
sakai_ikimono



Instagram
アカウント